

所内研究報告 第50号
2014年3月28日

国立社会保障・人口問題研究所 2011～2013 年度人口問題プロジェクト研究

わが国の長寿化の要因と
社会・経済に与える影響に関する人口学的研究

— 第3報告 —

国立社会保障・人口問題研究所

まえがき

国立社会保障・人口問題研究所は、2010年国勢調査人口に基づいてわが国の将来人口の長期的な推計を行った「日本の将来推計人口」(平成24年1月推計)を一昨年1月に公表した。この推計結果によれば、2010年に1億2805万7千であった日本の総人口は減少の一途をたどり、出生中位・死亡中位推計では50年後の2060年には8673万7千にまで減少する見通しである。一方、総人口に占める65歳以上人口の割合は、この間23.0%から39.9%へ上昇することが見込まれる。わが国はいよいよ本格的な人口減少時代に突入するとともに、歴史上どの国も経験したことのない超高齢化社会を迎えることになる。ここでとくに注目すべきことは高齢者の実数であり、同推計によれば、2010年から25年後の2035年にかけて、65歳以上の人は2948万4千人から3740万7千人へ、75歳以上の人は1419万4千人から2245万4千人へ、90歳以上の人は137万1千人から448万2千人へ100歳以上の人は4万4千人から33万8千人へ増加すると推計されている。すなわち高齢人口の中でさらに高齢化が起こることを意味している。

このような高齢人口の増加がわが国の社会・経済とりわけ社会保障制度に重大な影響を及ぼすことは明らかである。その状況を詳しく知り対策を立てるためには、日本人の「長寿化」すなわち寿命伸長のメカニズムや背景要因を明らかにする必要がある。そこで本研究所では2011～13年度の3年間にわたる人口問題プロジェクト研究「わが国の長寿化の要因と社会・経済に与える影響に関する人口学的研究」を実施することになった。出生力に関する研究が盛んにおこなわれているのとは対照的に、死亡や健康に関する人口学研究は日本では従来手薄であったが、2009年12月に「長寿革命：驚異の寿命伸長と日本社会の課題」と題する厚生政策セミナーを実施したことなどが契機となり、本研究所としても長寿化に関する人口学研究に総力で取り組むことになったものである。

本研究プロジェクトは主に、①日本版死亡データベース(Japanese Mortality Database: JMD)の構築、②死亡データベースを利用した人口学的方法論的分析、③長寿化に関する関連分野からの学際的アプローチによる実体分析の3つの柱からなる。プロジェクトメンバー(所内・所外委員)に加え、厚生労働省で統計や数理の実務に携わっている方々や民間企業のアクチュアリーなど専門家の方々に外部協力者として参加していただいていることも本プロジェクトの特色の一つである。これまで①②③の課題に対して並行して取り組んできたが、一昨年度の「第1報告書」、昨年度の「第2報告書」に引き続き、最終年度の研究成果を「第3報告書」として刊行する次第である。

本報告書は3部構成になっており、第1部(総論)では研究の概要を述べ、第2部(各論)には研究班員による3つの個別論文を収録した。また、第3部には付属資料として、昨年度から研究所のホームページで公開を開始した日本版死亡データベースについて、本年度新たに提供された都道府県別生命表の一部について掲載した。また、本年度の研究会において、厚生労働省大臣官房統計情報部企画課国際分類情報管理室谷伸悦室長と東北大学大学院医学系研究科社会医学講座公衆衛生学分野辻一郎教授から研究報告を行って頂いたが、この研究報告に関するプレゼンテーション資料についても収録した。

本研究プロジェクト実施に当たっては本研究所内外の多くの方々のご協力を得た。とりわけ本プロジェクトの研究会において有益なご教示をいただいた辻一郎教授、フランス・メレ氏、谷伸

悦氏、關雅夫氏に厚く御礼申し上げます。

2014年3月

国立社会保障・人口問題研究所

「わが国の長寿化の要因と社会・経済に与える影響に関する人口学的研究」

プロジェクト

(所内委員)

石井太（人口動向研究部長）

別府志海（情報調査分析部第二室長）

泉田信行（社会保障応用分析研究部第一室長）

白石紀子（情報調査分析部主任研究官）

(所外委員)

河野稠果（麗澤大学名誉教授）

佐藤龍三郎（中央大学客員研究員）

鈴木隆雄（国立長寿医療研究センター研究所所長）

高橋重郷（明治大学客員教授）

野口晴子（早稲田大学教授）

堀内四郎（ニューヨーク市立大学教授）

ジョン・ウィルモス（国連人口部長）

目 次

第 1 部 研究の概要

わが国の長寿化の要因と社会・経済に与える影響に関する人口学的研究 — 第 3 報告 —	3
--	---

第 2 部 個別論文

日本版死亡データベースの構築と人口分析への応用に関する研究(3) 石井 太.....	11
日本の傷病別平均受療期間の推定	別府 志海・高橋 重郷..... 35
在宅死亡と介護サービス利用の関係についての一考察	泉田 信行..... 63

第 3 部 資料編

日本版死亡データベース(JMD)による生命表：都道府県	石井 太..... 73
本年度研究会報告資料	123
WHO ICD: World Health Organization International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problem	谷 伸悦..... 125
生活習慣と平均余命・生涯医療費との関係 ～大崎国保コホート研究より～	辻 一郎..... 151